

2022年度 卒業論文・修士論文

卒業論文・修士論文の正しい 書き方に関する説明

指導教員 アサノ デービッド 教授

2021年1月31日提出

信州大学 工学部 電子情報システム工学科
17T2000A・19W2000A
信州 太郎

あらまし

この論文でやったことを簡単に説明するところです。あらましは論文と独立に読むため、論文を読んでいない人でも論文の内容が大体わかるように書くこと。論文の内容とかぶってもいい。構成は論文の目的、提案方式、主な結果にする。

表紙とあらましはページ番号がない。次のページのページ番号が「iii」になり、そのあとは「iv,v,vi,...」と続く。

目次

第1章 序論	1
第2章 背景技術	2
2.1 必要知識1	2
2.1.1 必要知識1の1	2
第3章 システムの説明	4
第4章 操作例	5
第5章 結論	6
参考文献	7

図 目 次

2.1 図のサンプル	3
3.1 写真のサンプル	4

表 目 次

4.1 セル構成	5
--------------------	---

第 1 章

序論

研究の背景、目的を書く。

各章の名称は適切に変更してもよい。

このページからページ番号が「1,2,3,...」に変更する。

参考文献は必ず本文から参照すること。例えば次のように。

過去に類似した〇〇の研究があり、いいことを提案した [1][2]. また、[3] では、すごいことを証明した。

第 2 章

背景技術

論文の内容を理解するために必要な知識について書く。節等の番号に注意すること。

章のタイトルは例であり、適切なタイトルに変更しても良い。

2.1 必要知識 1

説明を書く。

2.1.1 必要知識 1 の 1

細かくわかる必要があるとき。

図 2.1 に図のサンプルがある。PDF にして保存するとききれいになる。JPEG 等の画像フォーマットを使うと線や文字が汚くなる。

図は必ず本文から参照すること。図番号に注意すること。「章番号. 章の中の連番」の形式にすること。図の見出しは図の下に配置する。

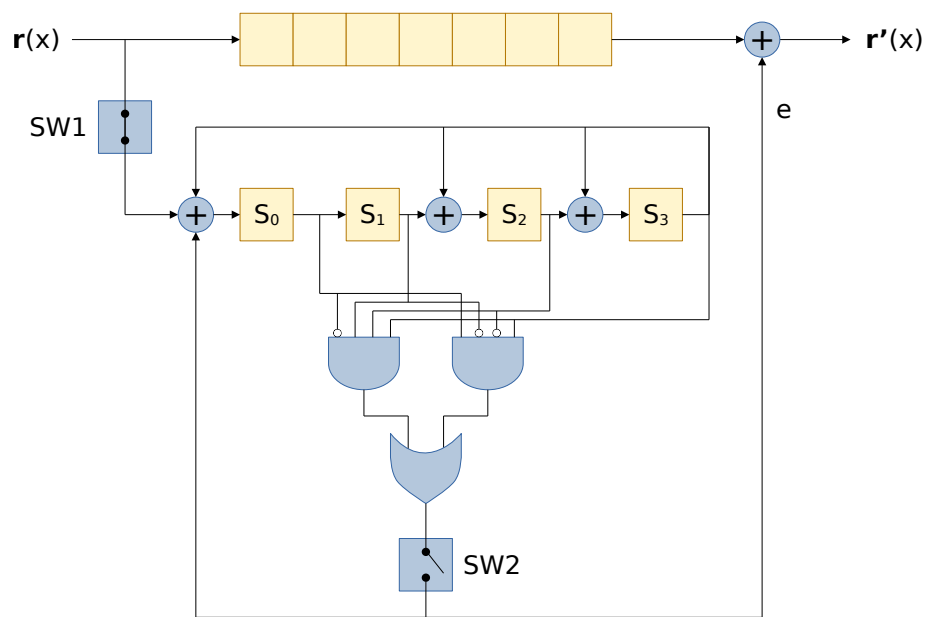


図 2.1: 図のサンプル

第 3 章

システムの説明

この章では、システムの概要と機能を説明してから、実際にどう実現したかを説明する。2章の技術も参考にしながら、全体構成からそれぞれの部分の詳細説明に移る。システムの実際の画面等を使わずに、原理やアルゴリズムを説明する。使い方はここでは書かないこと。

図 3.1 に写真のサンプルがある。JPEG にして保存しよう。



図 3.1: 写真のサンプル

第 4 章

操作例

システムの操作を実際に示しながら説明する。実際の画面等をここに入れる。

表は次のようにすること。表の見出しは表の上に配置すること。本文から必ず参照すること。表番号は図と同じ要領で付ける。

表 4.1 に示すように、素晴らしいことをやろうとしている。

表 4.1: セル構成

Japan	PDC	4
Europe	GSM	3
USA	IS-54	7

第 5 章

結論

論文で書いたことを簡単にもう一度書いて、主な結果を書く。新しいことは書かない。
なるべく本文を読まなくてもわかるように書くこと。

参考文献

- [1] 信州 花子：「知的通信と知的符号化」電子情報通信学会 情報システム部門 全国大会予稿集 pp. 1-399 – 1-401 (1988)
- [2] 大下真二郎, 半田志郎, アサノデービッド：「デジタル通信」 共立出版 (2005)
- [3] T. Nagano, “Amazing things that can be done with an eraser,” *IEEE Trans. Amazing*, vol. AMA-23, pp. 111-222, Jun. 2009.